



発表者に拍手を送る参加者

大盛況! かいぼり報告会

2017年1月28日に三鷹市公会堂光のホールで「井の頭池かいぼり報告会〜未来へつなごう、湧水の池〜」が開催された。近隣住民や行政関係者、都外からの参加者も含めて372名が集まり、井の頭池への高い関心を示す報告会となった。

湧水復活へ向けて

今回の報告会は、井の頭池の自然再生をさらに進めていく上でポイントとなる「湧水復活」がメインテーマだ。基調講演では、都市の地下水の研究をされている芝浦工業大学・守田優氏が、武蔵野台地の地下水の構造や湧水の仕組みについて解説した。

守田氏によれば、かつて豊富だった井の頭池の湧水が枯渇したのは、地下水の過剰な汲み上げが原因らしい。守田氏は「地下水の汲み上げをやめたことで湧水が復活した地域もある。井の頭池での湧水復活を願っている」と熱く語った。

続いて、東京都土木技術支援・人材育成センターの國分邦紀氏から、近年の井の頭池の地下水位について調査報告があった。両氏の講演から、普段あまりなじみのない井の頭の地下水事情について知ることができた。



基調講演をする守田優氏

再生が進む井の頭池の自然

井の頭池で今年度最大のニュースは、59年ぶりとなるイノカシラフラスコモの復活であろう。東京都西部公園緑地事務所の内山香氏は、イノカシラフラスコモの復活までの経緯や、ボート池に繁茂した絶滅危惧種ツツイトモについて報告した。行政やボランティア、専門調査員、研究者、NPOなど多くの主体が関わった水草再生プロジェクトについて紹介し、「劇的な復活を遂げた水草を次世代へつないでいきたい」と話した。

NPO法人生態工房の八木愛氏、岩本愛夢氏からは、水生生物や水鳥のモニタリング調査報告があった。



三鷹市の清原市長と隣で見守るかいつぶりくん



イノカシラフラスコモも登場!



ロビーではパネルなどを展示し、かいぼり隊が解説しました



軽トラックで会場へ向かうかいつぶりくん

た。かいぼり27で多くの外来魚を駆除した結果、在来の魚やエビ類、水草が大幅に回復してきた。その結果、カイツブリが井の頭池で繁殖するようになったり、キンクロハジロやオオバンが自然の中にある食物を利用するようになった。こうした水鳥は、池の各所で観察することができた。井の頭池に足を運んだ際には、かいぼり後の自然の変化にもぜひ目を向けてほしい。

活動を支えるボランティア

井の頭池の自然再生活動は、大勢の市民ボランティアに支えられている。井の頭かんさつ会の田中利秋氏は、10年以上にわたって、井の頭池で自然を守り伝える活動をしてきた。これまでの活動がどのように広がり、かいぼりにいったのが、その経緯を振り返った。

東京都が公募したボランティア「井の頭かいぼり隊」は、メンバーによる実演も交えた元気の発表となった。山口行弘氏は、日々のモニタリング調査や普及啓発活動の様子を報告し、これからも井の頭池の自然再生活動に貢献していくという決意を語った。



かいぼり隊メンバーも作業道具を持って登場！

資料集が無料で読める♪
参加者に配布した報告会資料集のPDF版がホームページからダウンロードできます！ぜひご覧ください。



井の頭 100年

検索

この資料集は、東京三鷹ライオンズクラブ、東京武蔵野ライオンズクラブ、東京吉祥寺ライオンズクラブからのご支援により作成しました。



いけいけ！かいぼり隊
イクメン イケガール
～池男 & 池女、初の出張講演！の巻～

2月17日（金）、東京都環境局が主催する都民向け学習講座「身近な外来生物から考える東京の生物多様性」でかいぼり隊が活動報告を行った。かいぼり隊としては初めての出張公演だ。

かいぼり報告会での発表を再演するため、有志メンバーが胸長ぐつやフロッターを持ち、会場の深川江戸資料館に集まった。発表も2度目となり慣れてきたのか、本番前もリラックとした和やかな雰囲気だ。約140名の参加者に向けて、自然再生に取り組む市民ボランティアの声を届けた。



▲資料館の前で記念撮影。お疲れ様でした！

井の頭池の取り組みが都内で広く知られていることを実感したようだった。この経験が今後の普及啓発活動にも生かされていくことを期待したい。

ぼりさん⑤

筒メガネで水草調査



メガネもね。

Topics

かいぼり隊研修・水草



3月12日（日）に、今年度4回目のかいぼり隊研修会が行われました。東邦大学の白土智子さんをお招きし、池底の土壌シードバンクからの水草再生の可能性についてお話いただきました。白土氏さんは都内の公園池に注目して、土壌シードバ

ンクの水生植物の種子を調べています。井の頭池では市民参加型で調査を行い、かいぼり隊が協力しました。今回の研修は、調査の結果報告も兼ねていたため、質問や意見交換が大変活発でした。

白土さんのお話の後は、水草調査の振り返りと、今後に向けた改善点を話し合いました。春を迎え、早くも池底で芽を伸ばしている水草たち。今シーズンも目が離せません。

土壌シードバンクとは
土の中に含まれる植物の種子（埋土種子）集団のこと。池底の土には、過去に生きていた水草の種子が眠っていて、光や温度の変化が刺激となって発芽する。